様式 C-7-2

# 自己評価報告書

平成　23 年　5 月 20 日現在

機関番号：37301
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008 年～2012 年
課題番号：20520196
研究課題名（和文）GHQ/SCAP 関連資料を基軸とした戦後文学成立期に関する実証的研究

研究課題名（英文） A Substantial study on the post-war literature establishment period based on GHQ/SCAP-related documents

研究代表者
横手　一彦（YOKOTE KAZUHIKO）
長崎総合科学大学・共通教育センター・教授
研究者番号：60240199

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：戦後文学 戦後文学成立期 被占領下の文学 敗戦期文学 プランゲ文庫

１．研究計画の概要

新資料発掘や検閲制度等から、新たに戦後文学成立期の全体性の構築を研究目的とする。

２．研究の進捗状況

一九四五年八月から五二年四月まで、日本は他国に軍事占領された(敗戦期文学)。この時期の文学の動的関係性を、被占領と敗戦の視座から焦点化し、実証的手法による論考を積み重ねた。本課題を、10 領域に細分化し、それぞれの領域を具体的に論究することで、全体的な成果を獲得するものとして立案した。

列記すれば、

(1) GHQ/SCAP 在米資料、
(2) 同押収返還資料、
(3) 同検閲個人所蔵資料、
(4) 同国立国会図書館憲政資料室所蔵資料、
(5) 同検閲プランゲ文庫所蔵資料、
(6) 同検閲資料、
(7) 同周辺資料、
(8) 同検閲の断片資料の書誌的確認調査
(9) 同時期米国日本語図書移動経緯の踏査と原典調査、
(10) プランゲ文庫の史的位置付け、

である。

特に、(3)領域において、研究計画の立案時に目算していた以上の成果をあげた。このことは、本課題の骨子である GHQ/SCAP と日本人(日本語)との位置関係を再考するため、その具体的な表現(記録等)を発掘し、分析するという本意に沿うものであった。

また、「幻の世界遺産―被爆遺構・長崎浦上天主堂の記録」未公開写真パネル展実施(同企画実施責任. 2009 年 7 月 14 日～8 月 2 日長崎市松が枝町 7-15 ナガサキピースミュージアム)、「同」(2010 年 9 月 17 日～9 月 26 日東京都中央区銀座長崎センタービルギャラリー 主催長崎放送 後援：長崎県. 長崎市. 長崎新聞. 岩波書店)の形でも成果の一端を公開し、幾人かの方々から、今後の研究指針を与えられた。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)10 領域それぞれにおいて、具体的成果を求めた。特に、長崎原爆に関する未公開資料の発掘と公表に努め、著作物等の形で成果を公表した。

４．今後の研究の推進方策

10 領域、特に GHQ/SCAP 関連資料において、分析途中の未公開資料などがあり、この継続と公表に努める。

５．代表的な研究成果

〔雑誌論文〕（計 5 件）

・単著「プランゲ文庫所蔵版雑誌『ホープ』掲載 PX 内部写真などについて」2008 年 12 月『敍説』敍説舎発行 p140

～p157　など

〔学会発表〕（計 1 件）

「長崎原爆を長崎浦上原爆と読みかえる」日本社会文学会秋季大会 於宮崎公立大学　2008 年 11 月 9 日

〔図書〕（計 4 件）

1. 編著『長崎 旧浦上天主堂 1945−58』(企画編集責任) 2010 年 4 月岩波書店発行
2. 編著『被占領下の国語教育と文学』（企画編集責任）2009 年 4 月米国メリーランド大学図書館プランゲ文庫発行　など

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕